

学校教育基本方針	少子高齢化が進む現代平成日本の将来を逞しく担う、明治・大正時代を見本とした実践力を備えた聡明な「ふつう」の女性の育成を具現化する女子教育の実行。
学校教育目標	愛情豊かで聡明にして健康、勤勉な人間を目指し、時代にふさわしい知性と教養を身につけた女性の育成を目標とする。 「食育実践校」として、家庭を、自己を基盤とした実践力豊かで人間力に厚みのある人材を育成する。
重点努力目標	学力向上プランー基礎演習を行うことによって基礎、基本の徹底をはかる。 進路実現に加え、卒業後の離職・退学、進路変更予防を見据えたキャリア教育の徹底。 進路指導に基づいた基礎的マナーアップに関するコーチングの強化。 (4：十分達成している 3：おおむね達成している 2：どちらかという達成されていない 1：ほとんど達成されていない)

評価項目	具体項目	目 標	具 体 的 方 策	評 価		総 括	成果と課題	
				前 期	年 末			
<b>1 学校経営 全職員が共通の理念に立った学校経営の参画における教育的成果の評価</b>								
(1)	学校教育目標	学校教育目標の具現化	学校の実態に即した目標が設定され、教職員間の共通理解のもとに、教育目標の具現化を図る。	校務分掌及び学年の経営方針にも学校の教育目標を盛り込んで具現化し実践する。	3.7	4.0	3.9	○食育の実践が畑の土作り、野菜作りまで含めてなされ、循環型の食育が教育の中に具現化された。
				目標達成の度合いを年度途中で評価・確認する機会を設け、その後の教育活動に生かす。	3.7	4.0		
(2)	学校経営方針	経営方針の明確化とその実践	経営方針が学校内外に明確に示され、教職員間の相互理解と保護者・地域の支持に基づく教育活動を行う。	各教職員が経営方針を意識して教育活動を展開する。	3.8	3.8	3.6	○経営方針と教育目標は違うと思うが、その認識が曖昧なところがある。 ○育友会総会だけでなく途中にもう1回保護者会をしてはどうか。
				教育目標や経営方針を生徒・保護者・地域等に説明したりする機会を設ける。	3.3	3.3		
(3)	学年経営	学年目標の具現化	学校目標に沿った学年目標による経営を行う。	学年目標の教員・生徒への浸透を図り、その目標達成のための教育活動を展開する。	3.3	3.7	3.7	○学級目標と学年目標の設定が明確でない。 ○生徒の欠席が減り、学級活動が円滑にできるようになった。 ○職員間の共通理解が図られ、行事等を含めた活動が円滑にすすんだ。 ○三者面談は100%の実施率である。
				朝礼、終礼時にミーティングを行い目標の達成状況、指導上の課題等について職員間での共通理解を図る。	3.8	4.0		
				学校目標や学年目標に沿って、学級の実態に応じた学級目標を設定し、学級経営を行う。	3.2	3.7		
				三者面談を年に1回以上実施し、学級生徒の多面的理解を深める。	4.0	4.0		

評価項目	具体項目	目標	具体的方策	評価		総括	成果と課題	
				前期	年度末			
<b>2 教育活動 教育活動全般における計画的、組織的な教育的成果の評価</b>								
(1)	教育課程の編成	創意工夫を生かした適切な教育課程の実施	学習指導要領の主旨が生かされた特色ある教育課程を編成する。	多様な生徒の能力・興味・関心・進路に応じた特色ある教育課程を編成する。	3.7	3.8	3.5	○演習、ステップアップの授業において国・数・英の基礎力の向上がみられた。
				教育課程の実施に当たって、教育目標の達成状況を定期的に点検する。	3.3	3.3		
(2)	教科指導	わかる授業の展開と工夫・改善	創意工夫がなされた学習指導を行う。	各教科科目の年間指導計画（シラバス）を作成し、学習の動機付けや意欲喚起、学習方法を事前に計画的に実施する。	3.8	3.8	3.6	○考查の得点以外に観点を加味する教科とそうでない教科がある。 ○実技教科以外も検討する必要があるのではないかと。 ○1年生には基本的な授業を展開しているが定着していない ○考查得点が評価になっているので生徒の多面的な能力を評価することができない。 ○創立記念式典における生徒の様子を評価に加味し、生徒の意欲・態度を反映させた。
				基礎・基本の内容を重点化した指導を行い、基礎学力・基礎技術の習得の徹底を図る。	3.8	4.0		
				生徒の実態に応じて、教材を精選したり、タブレット等の教育機器を用いたりして、指導を工夫する。	3.3	3.5		
				定期考查の得点以外の観点も評価に加味し、生徒の多面的な能力を評価する。	3.3	3.3		
				生徒による授業評価を年2回実施し、授業改善を図る	3.7	3.7		
(3)	総合的な学習の時間	ねらいが明確で創意工夫を生かした活動	学習指導要領のねらいをふまえて、地域や学校の特色を生かした活動を行う。	学校の特性を生かした年間計画に基づき、生徒の問題意識・問題解決能力など「生きる力」の育成に取り組む	3.3	3.7	3.6	○大久保小学校との交流を通し、生徒の視野が広まり考えが深まった。
				地域との交流を視野に入れ学校の特性を生かした活動を取り入れるような検討・研究を行う。	3.7	3.8		

評価項目	具体項目	目標	具体的方策	評価		総括	成果と課題	
				前期	年終			
<b>2 教育活動 教育活動全般における計画的、組織的な教育的成果の評価</b>								
(4)	特別活動	ホームルーム活動の充実	学校・学年の教育目標に沿った年間計画により、活発な活動を行う。	年間計画に基づいて、事前準備をよく行い、活発なホームルーム活動を実践する。	3.5	3.7	3.8	<p>○計画に基づいたHR活動が行われ年間を通して生徒の意識が向上した。</p> <p>○クラス単位での計画ができていないのでどんなことを実践していくべきか計画を立てることが必要。</p>
		学校行事の充実	生徒の実態に即した効果的な行事を行い活動内容を工夫する。	効果的な学校行事になるよう、生徒の実態に即した見直しを行い、内容も工夫する。	4.0	4.0		
(5)	生徒指導	基本的な生活習慣の確立	生徒理解に基づき、全教職員であいさつ・マナー・礼儀等のきめ細かな生徒指導を行う。	服装、容儀などについて生徒心得を中心に、生徒・保護者に説明したうえで、教職員の共通した指導を行う。	3.8	4.0	3.8	<p>○容儀指導は生徒、保護者に十分に理解が得られている。</p> <p>○服装違反が少なく、その都度生徒と話して理解させた。</p>
				普段の学校生活において、個別面談等を通して基本的な生活習慣の確立に努める。	3.3	4.0		
(6)	進路指導	進路指導の充実	系統的・計画的な進路指導を行う。	生徒が望ましい勤労観・職業観を持つことができるよう、各学年に応じた系統的指導に努める。	3.2	3.2	3.3	<p>○1年生から3年生までの3年間を見据えた系統的進路指導について、一層の工夫が必要。</p> <p>○就職試験に必要な一般常識問題の対策などもっと早くからさせて就職を意識させた方が良い。</p> <p>○職業講話の実施。</p>
				進路実現に向け、進路情報の提供、講演会の実施、個人面談等を行う。	3.5	3.7		
				進路計画に基づき、職業意識の高揚と啓発を図る。	3.2	3.2		
(7)	教育相談	教育相談の充実	生徒の持つ悩みや困難の解決を援助する。	全教職員、教育相談ができるよう研修の場を設ける。	3.2	3.7	3.7	<p>○1年生より適性試験を受けさせ外部講師に分析の仕方を詳しく教えてもらい、その結果から今後の指導を定期的に行う必要がある。</p> <p>○教員研修を積極的に行う</p>
				不登校・いじめなど生徒の動向を細かく観察して問題等を的確に把握し、適切に対応する。	3.8	4.0		
(8)	生徒会活動	生徒会活動の充実	自主的な生徒会活動を支援する。	生徒会行事に生徒が主体的に参加できるような工夫と呼びかけを行う。	2.8	3.3	3.0	<p>○朝の外庭清掃を行ったり、各部の委員長が積極的に活動している姿が見られ、以前よりも自主的に活動できている。文化祭や体育祭も検討</p> <p>○教師主導から生徒主導に少しずつであるがなされている。</p>
			生徒の自発的・自主的な活動を活発に行う。	生徒の自発性・自主性が発揮され、活発な生徒会活動を展開する。	2.7	3.2		
(9)	読書教育	読書活動の充実	読書活動を通して、豊かな人格と落ち着いた生活態度を養う。	年間を通して朝の15分間読書を継続して行う。	3.8	3.8	3.8	<p>○現在の生徒はなかなか本を読む機会が少ないので良い習慣となっている。</p> <p>○静かに本を読むことで一日が始まる、良い習慣が付いている。</p>

評価項目	具体項目	目標	具体的方策	評価		総括	成果と課題	
				前期	年度			
<b>2 教育活動 教育活動全般における計画的、組織的な教育的成果の評価</b>								
(10)	健康・安全教育	健康や安全に対する態度の育成	健康・安全な生活を送るための指導を行う。	生徒の心身の健康について、分掌・担任等の連携を密にした指導を行う。	3.8	4.0	3.7	○生徒の精神状態や健康状態は教員全体で把握し、それに対応した指導をすることができていた。 ○外部で事件等が発生した時も、常に生徒に連絡し、注意させることができた。
				安全確保について生徒や保護者への啓発を促し、組織的に対応できる危機管理体制を整える。	3.3	3.7		
				心身の健康づくりを推進するため、「食育」に関する取組を計画的に実践する。	3.8	3.8		
(11)	人権・同和教育	人権尊重に対する普遍的価値観の醸成	人権尊重に関するさまざまな課題を認識させ、解決のための実践力を身につけさせる。	体系的な人権・同和教育計画に基づき全生徒に指導し、生徒が人権課題を解決しようとする態度を育成する。	2.8	3.2	3.2	○人権学習でDVD等を鑑賞させることで人権尊重の理解が深まった。 ○課題の認識と解決のための実践力向上の研修は今後の課題である。
				教職員の認識の深化と、指導力の向上を図るため、校外研修に参加し、校内における職員研修を行う。	3.3	3.3		
(12)	全校参加型の活動	活動の活性化	全校参加型活動への出席を奨励し、活発な活動による健康維持を図る。	全校参加型活動によって、生徒が達成感を持ち、好ましい人間関係づくりや個性の伸長を図るよう支援する。	3.7	4.0	3.9	○学校行事、農作業、奉仕活動において全校で取り組んだ結果、学年間の交流が図られ協調する心が育まれている。
(13)	ボランティア活動	Sクラブ活動の充実	ボランティア活動を通して、奉仕の心と郷土を愛する心の育成する。	国際ソロプチミスト佐世保久田学園佐世保女子高等学校Sクラブの意義を認め、生徒の自主的な参加を促し、活動の活性化を図る。	3.8	4.0	3.9	○Sクラブの活動の意義を理解し意欲的な活動に変わった。今後も生徒への自主的な参加と奉仕の心の育成には努力を要す。
(14)	個別指導	個を生かす指導の充実	個に応じた指導の一環として、学習支援、各種資格取得を奨励する。	生徒の意欲的な生き方への支援を積極的に行い、個々の生徒に応じて、学習及び資格取得など適切な指導助言を行う。	3.8	4.0	3.9	○英検・漢検の指導がよくなされた。

評価項目	具体項目	目標	具体的方策	評価		総括	成果と課題	
				前期	年度末			
<b>3 組織運営 教育活動の円滑化、教師集団の協働性に関わる教育的成果の評価</b>								
(1)	校務分掌	適切な役割分担、組織的な活動と運営	各自の役割分担が明確であり、分担に応じて適切に校務を処理する。	前年度の各分掌の課題を確認し、その課題解決を図るよう努力する。	3.5	3.7	3.8	
				各校務分掌の活動について組織的・計画的に評価を行い、資料等の記録・保存にも努める。	3.7	4.0		
				各分掌・学年等での話し合いの結果を教職員に周知し、共通理解を図って指導にあたる。	3.8	3.8		
(2)	各種委員会	目的に応じた適切な委員会の設置とその運用	目的に沿って適切に委員会を設置し、運営する。	努力目標に応じて、その実現のため適切に委員会を設置する。	3.5	3.8	3.7	○明確な委員会設置及び活動に至っていない。
				各種委員会を適切に開催し、話し合いの結果を、学校運営や教育活動等に生かす。	3.5	3.8		
(3)	校内研修	研修体制の確立と実践	計画的・組織的に授業研究等を行う。	校内での教員相互の授業公開など授業研究を活発に行う。	3.0	3.5	3.3	○具体的にどういった研修を行うべきか検討を行ってはどうか。 ○英語の研究授業は大変参考になった。 ○研修会の参加により、国語の授業を実際に参観でき、国語授業の向上に意欲が湧いた。
				校外から講師を招き、視野を広げる講演会を開催する。	2.8	3.2		
				各種公的な研修会へ積極的に参加し、資質向上を図る。	3.5	3.7		
(4)	目標管理	教職員の資質向上	学校活性化のために各自目標を設定し、自己申告を行う。	年2回による自己申告による目標管理を行う。	3.2	3.2	3.3	
				学校活性化に向けて積極的な提言を行う。	3.2	3.5		
<b>4 教育環境 学校の置かれている条件や環境に関わる教育的成果の評価</b>								
(1)	学校環境の整備	潤いのある生活環境の整備	日々の清掃を充実させ、美化意識を高める。	全校生徒、全教職員で積極的に清掃活動に取り組む。	3.8	4.0	4.0	○朝掃除を生徒は取り組むようになった。
				生徒会生活環境委員会を通じて花いっぱい運動を積極的に行う	4.0	4.0		
(2)	施設・設備の管理	活用と安全管理	施設・設備の有効な活用が図られ安全点検等の管理を適切に行う。	必要な施設・設備の整備を行うとともに、有効活用を工夫し、安全点検も定期的に行う。	3.5	3.7	3.6	
(3)	情報インフラの設備・充実	教育活動全般の情報化	パソコン等を使った校務処理を適切に行う。	パソコンによる校務処理を積極的に推進すると共に、データの共有化を図る。	3.8	3.8	3.9	○校務のスピード化、データの共有化により共通理解も深まった。 ○見やすく、面白いホームページに変わって、皆が「良い学校」と思う内容である。
				ホームページを見やすくし、定期的に更新する。	4.0	4.0		

評価項目	具体項目	目 標	具 体 的 方 策	評 価		総括	成果と課題	
				前期	後期			
<b>5 開かれた学校づくり</b>								
(1)	保護者との連携	協力体制の確立	生徒に関する情報を相互に交換する。	個々の生徒について、学校と保護者が緊密に連携を保ち、相互に連絡を取り合う。	3.7	4.0	3.8	<p>○学校と保護者との連携がなされており問題行動は起きていない。</p> <p>○後援会・同窓会への積極的参加には至っていない。</p>
		育友会後援会同窓会活動の充実	支援と活性化を積極的に図る。	教職員も積極的に育友会・後援会・同窓会の活動に参加し、保護者と協力して活動の活性化に努める。	3.7	3.7		
(2)	地域や関係機関との連携	協力体制の確立	学校方針や具体的教育活動についての情報を提供する。	大久保小学校・市内中学校・高等学校及び施設等に学校の教育方針を知らせ、相互の情報交換を行う。	3.7	3.8	3.7	<p>○卒業生への感謝の手紙が大久保小学校の児童により届けられ、相互の交流が図られている。</p> <p>○行事があるたびに地域で関係機関が参加していただきそれが相互の協力へとつながっている。</p> <p>○長崎っ子の心を見つめる週間での公開授業は良かった。</p>
		学校間連携の充実	他校や異校種との必要に応じた効果的な連携を行う。	上記の学校及び施設等と連携した行事等を積極的に計画し、相互交流を図る。	3.7	3.8		
		外部講師の招聘	教育目標に沿って、外部講師招聘による教育活動を行う。	必要に応じて各分野の外部講師を招へいし、教育効果をあげる。	3.5	3.5		

評価項目	具体項目	目 標	具 体 的 方 策	評 価		総括	成果と課題	
				前期	後期			
<b>6 私学活性化事業（スクールランチ）</b>								
(1)	家庭との連携	協力体制の確立	食育に関する情報を相互に交換する。	個々の生徒へ食育の実践的な指導を行い、家庭での実践力を高め、家庭の教育力がまし、学校教育活動と緊密に連携を保ち、相互に評価しあう。	3.3	3.3	3.6	<p>○スクールランチの実践が家庭での実践にまで至っていないが少しずつであるが、家庭でも手伝うまでになっている。</p> <p>○食育推進についての情報を地域へ発信するまでには至っていない。</p> <p>○学校便りにおける情報の公開。</p> <p>○大地といのちの会の協力により食・体・健康についての話や実践活動に触れる事ができた。</p> <p>○スクールランチにおいて外部講師を招聘した。</p>
(2)	地域や関係機関との連携	協力体制の確立	食育実践方針や具体的推進普及活動についての情報を提供する。	相互の 情報交換を行う。	3.2	3.3		
		食育行事の充実	授業・実習を通して必要に応じた行事を実施する。	行事等を積極的に計画し、地域への食育を推進する。	3.8	3.8		
		外部講師の招へい	食育目標に沿って、外部講師招聘による教育活動を行う。	必要に応じて各分野の外部講師を招へいし、教育効果をあげる。	3.8	4.0		